

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300446		
法人名	社会福祉法人 青藍会		
事業所名	ハートホーム宮野グループホーム		
所在地	山口市宮野下2997-5		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町受理日	平成23年4月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ヶ月に1度偶数月には家族交流会として外出や会食を行い、奇数月には運営推進会議後の茶話会にてご家族様、地域の方との交流を図り、月ごとの行事を実施し季節感を味わい気分転換を図りその都度写真をホーム内に掲示すると共に毎月グループホーム便りにてご家族様へ発行し、ご利用者様のご様子や活動風景を発信している。地域のお祭りへの参加、小学校の運動会、音楽会などへの参加、買い物訓練、散歩等地域との交流を図っている。また脳活性化リハビリとして月に一度外部講師による習字やフラワーアレンジメントを実施し年に一度共同作品、個人作品の展示会を実施している。またご家族様ご希望により看取りケアを行い3例の経験がありご家族様、医療関係者、職員が常にコミュニケーションを取り信頼のおける支援、援助を行なっている。急変時には、医療と連携を図り訪問看護ステーションが24時間対応できる体制をとり、安心して穏やかに過ごせるよう支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ施設内にあるデイサービスの行事に、利用者が参加できる機会が多く、大正琴やピアノコンサート、オカリナ演奏、歌、歌体操などを楽しまれています。プロの講師を招いてフラワーアレンジメントや書道をしてもらえ、利用者の作品を地域交流室や地域の祭りの場に展示して、利用者も見学に行かれ地域の人々と交流されています。介護計画に基づいたサービスの実践状況を「入居者状況報告書」に記録し、「介護サービス評価書」と一緒に家族に送付して、家族から意見をもらっておられ、家族や本人の意向や思いを大切にしてケアカンファレンスをされ、現状に即した介護計画の作成に取り組まれています。家族会があり、2ヶ月に1回家族交流会行事を開催され、会食や蜆の観賞、りんご狩りなどを行って、家族同士、家族と利用者、職員との関係を深めて交流しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日GH朝礼にて理念を唱和することで意識を統一し実践している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、ホールに掲示して、毎朝の申し送りで唱和し、月1回のミーティング等で確認して理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ買い物へ出かけたり、地域のお祭りや学校行事(音楽会など)に参加している。	小学校の音楽会に利用者が招待されたり、地域の祭りに利用者の作品を出展して見学に行き、催し物を観たり、喫茶コーナーでお茶を飲んで楽しんだりしている。買い物時や散歩のときにも地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りに作品を出展したり当施設にて年に一度DSと合同の作品展示会を実施し地域の施設より出展していただき理解を得ている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングや勉強会で取り上げ取り組んでいる。	評価の意義を理解している。自己評価書の項目を職員に分担して記入してもらい。管理者がまとめミーティングで話し合っ作成している。自己評価をする事で職員のケア目標を再確認している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催しご利用者様も参加され地域の方、包括支援センターの方との意見交換にてサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催し、状況報告、行事報告、感染症予防の取り組み等について意見交換している。民生委員からボランティアの活用についての意見があり、リンゴ狩りでの支援があり、列車に乗っての体験が出来るなど意見を運営に反映している。	・地域のメンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一度の運営推進会議時にケアサービスの取り組み等を報告している。	年2回、市の介護相談員が来訪している。市とは、運営推進会議以外の連携は少ない。	・市との協力関係を築くための工夫
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの勉強会を実施しているが玄関の施錠は三階と言う事もある為、転落事故防止の為、安全性を考え施錠はしている。	マニュアルがあり、勉強会をして全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。事業所が3階にあり、事故防止などの安全の為に施錠している。利用者の見守りに重点を置いて、できるだけ鍵をかけない時間をつくり、外出を察知したら、可能な限り職員が一緒に出かける支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会で話し合い、虐待の防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月勉強会を実施しているが日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を実施していない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には契約書、重要事項説明書を基に説明し納得されてサインをして頂く。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置、また運営推進会議に参加された時など質疑応答の場作り、介護相談員派遣事業より相談員来訪により相談、苦情の内容を施設内に掲示している。	電話、面会時、家族会、運営推進会議などで家族の意見や要望を聞いたり、意見箱を設置して家族や利用者が意見等を言いやすいようにしている。相談・苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。年2回、市の介護相談員が来訪して、本人の相談や苦情を聞きとり、事業所に報告している。出された意見は、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施し勉強会や意見交換を実施している。	管理者は、職員会議等で職員から意見を聞き、出た意見は拠点長に報告し運営に反映させるように努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外手当は支給されているが、職員の勤務人数により有休が使用しづらい環境にある。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には参加するよう促し受講資格のある職員は積極的に受講申し込みを行いケアの向上を目指している。	外部研修は、勤務の一環として段階に応じて参加の機会を提供し、受講者は復命報告している。法人内研修は充実しており、全職員が受けられるよう支援している。事業所内でも勉強会を行うなど職員を育てる取り組みをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス施設部会への参加や他事業所の見学などサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にバックグラウンドをご家族様へ記入して頂き生活歴の把握やアセスメントを行いご本人、ご家族様の要望をお聞きしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネはご家族様と話し合い要望等聞き入れ暫定プランを作成し信頼関係を築く努力をしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望意向を取り入れサービスを新たに導入して、優先順位を考えた対応に努めている。他のサービスとの併用は行っていない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく生活を送る上で共に出来る事を支援する事で共同生活での人間関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を壊さないように、ご家族とご本人のふれ合う場や行事を考え提供し、共に支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある人との関係が途切れないよう自由に面会や外出などの出来る環境を作り支援に努めている。	自宅周辺のドライブ、地域の祭り、スーパーでの買い物など、家族や地域の人と交流し、写真を撮るなどして、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しているがご利用者9名中8名が女性で男性が1人なのでやはり時折孤立されておられるが個別ケアや少人数での外出などの支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への転院や死亡退去による場合は契約終了後の相談や支援は出来ないのが現状です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスを実施し一人ひとりの思いや暮らし方について話し合い希望、意向について検討している。	日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、「経時記録」「申し送りノート」「アセスメントシート」に言葉や行動などを記録している。困難な場合は家族と話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にバックグラウンドの記入をお願いしご本人の生活歴の把握をしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個々の日常生活での行動、残存機能を把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスで介護計画に対する評価を行い3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。ご家族やご本人の要望、状態を検討し作成している。	「介護サービス評価表」などを毎月家族に送付して、家族の意見を聞き、モニタリングをもとに月1回ケアカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見などを反映させた介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録に残し毎月カンファレンスを行う事で情報を共有しケアマネに情報提供する事でケアプランの見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間医療連携体制を基に訪問看護と連携を図り、体調の変化など早期発見、早期治療を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーに買い物に出かけたり、地域のお祭りや小学校の行事(音楽会など)に参加し楽しめる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一ヶ月に2度の往診を実施し、ご本人、ご家族の希望により適切な医療を受けられるよう支援している。	全利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。1ヶ月に2度の往診、週1回訪問看護師が訪問しており、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護による健康チェックを行いその時に健康状態の情報提供、気付きを報告し、特変があれば直ぐに受診できる体制を整えている。また訪問看護よりの確な指導を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、各医療機関の地域連携室と連絡を取り状態報告や情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望により看取りケアを実施している。ご本人、ご家族、訪問看護師、医療機関の主治医と相談しご家族へ説明を行い看取りに関する指針を基にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を本人や家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、本人・家族・訪問看護師・主治医・関係者等で話し合い、共有して支援している。今までに4例の看取りをしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急マニュアルや緊急連絡先を廊下に貼り出し急変時や事故発生時に的確な対応ができるよう毎月のミーティングで事故報告、対策を検討している。	ヒヤリはっと・事故報告書に記録し、ミーティングで対応策を検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回、救急救命講習を行なっているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を1年に2度実施している。地域との協力体制はこれから築いていくようにする。	年2回、消防訓練(消火・通報・避難)を1回は夜間を想定し、利用者も参加して実施している。近隣住民に協力を働きかけている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時に接遇ミニ研修を行い、言葉使いや言葉かけを確認し、誇りや人権に配慮した行動、言葉かけを行っている。記録、個人情報などは施錠できる場所に保管してある。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを、職員会議等で学び、日常のケアで気づいたとき職員同士で注意しあい、配慮して取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物、外出、レクなどご本人の希望に沿い実施している。また、自己決定が出来るような声かけを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で1日の流れが出来ている部分もあるが、食事場所、入浴時間等個々のペースを大切に支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、外出着に着替えられたり、月に一度出張サービスにて希望により散髪を実施される。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付けをご利用者様と一緒にやっている。昼食前に口腔体操を行う事で食欲の増進を促している。	食事は配食であるが、月1回、お楽しみ食事をを行い、利用者の好みを聞いて献立、買い物、調理を利用者と一緒にし、食事が楽しめるよう支援している。法人の厨房から出張があり、にぎり寿司大会をすることもある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食、おやつ時にチェックしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。週に2回義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声かけを行い排泄チェックシートに記録している。紙パンツより布パンツに変更した場合は排泄リズムを把握する為、細かくトイレ誘導を実施している。	排泄のチェックシートを活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし、水分不足による便秘に注意している。必要に応じて起床時に冷水や朝食事に牛乳を提供している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一番風呂希望や夕方の入浴を希望されるご利用者に対応している。入浴拒否が見られる場合無理強ひせず、時間を空け声かけを行っている。	入浴は毎日14時から行なっている。夕方や就寝前でも希望があれば入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングや声かけなど工夫して入浴が楽しめるように支援している。清拭、シャワー、足浴などでも対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり眠たくなる時間に入床して頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の効能や副作用、用法、用量をまとめ確認をしている。服薬の確認は職員2名で行い症状に変化があれば主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし一人ひとり出来ることを日常生活の中で行えるような環境を作り、散歩、外出、買い物、畑仕事、家事を行なえるよう支援している。	フラワーアレンジメント、書道、デイサービスの行事(大正琴やピアノコンサート、オカリナ演奏、歌、歌体操)への参加、家族交流会、誕生会、散歩、花見、ドライブ、買い物、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外出、畑仕事など必要に応じて行い、普段いけないような場所へは家族交流会にて蛍見学やりんご狩り、なし狩りなどの外出を計画し、実施している。	散歩、買い物、ドライブ、外食、蛍見学、りんご狩り、花見など戸外に出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解力のある利用者様には買い物時に好みの物を選んで頂きお金を払って頂くことで支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時や年賀状、暑中見舞いなど出して頂く様支援している。電話はいつでも使用できる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やエレベータ横に季節の花が生けてあり、食堂の壁には季節のちぎり絵をご利用者様と作成し飾っている。	共用空間は広く明るく、音や空気の流れ等に配慮している。事業所の出入口の横やリビング等に季節の花を掛け、随所に利用者の作品を飾って季節感が感じられるようにしている。畳のスペースやソファが置いてあり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人ひとり個別になっている。共用空間では畳コーナーの設置、ソファの設置により気の合った利用者同士過ごせる工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスは施設のものがあるが個人の家具、仏壇、テレビ、CDプレーヤーなど使い慣れたものを持ち込まれたり、壁に思い出の写真を貼るなどされ居心地良く過ごされる。	居室の窓から幼稚園や小学校の運動場で遊ぶ子どもたちの様子が眺められる。洗面台やダンスなどは備え付けであるが、馴染みの椅子やテーブル、仏壇、使い慣れた生活用品などが持ち込まれ、家族の写真や利用者の作品を飾って本人が落ち着いて暮らせるよう支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、居室内に手すりを設置し、安全に歩行できるようにしている。また廊下も広く杖歩行、歩行器歩行の方も自立出来るようにしており居室前に名前と写真を掲示する事で確認し自立した生活を送ることができる。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 ハートホーム宮野グループホーム

作成日：平成 23年 2月 5日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	「事故防止の取り組みや事故発生時の備え」 定期的な訓練の実施	毎月GHミーティング事故対策の検討や年一度の救急救命講習を行っているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練を実施する。	・応急手当、初期対応のマニュアルを作成する。 ・定期的（半年に一度）ミーティング時に訓練を実施する。	12ヶ月
2	5	「運営推進会議を活かした取り組み」 地域のメンバーの拡大	地域住民自治会長や施設地区の民生委員の参加	・自治会長・地区の民生委員の方への挨拶や会議への参加のお願いをする。	6ヶ月
3	6	「市町との連携」 市との協力関係を築くための工夫	ご利用者様・ご家族様との交流時に市町職員の交流も行い連携を図る。	2ヶ月に一度の家族交流会時に市町職員の方も交流会に参加して頂き連携の図れる環境を作る。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。